

# 玉川ダム交流会

森と湖に親しむ旬間



児童たちはダムのはたらきなど、たくさん学びました。

7月25日、ダムの役割を学び森林や水などの自然の魅力に親んでもらおうと玉川ダム交流会が開催され、仙北市内の小学校7校と大仙市の内小友小学校、秋田市の北上手小学校の4年生235人が参加しました。

玉川ダムの施設見学では、資料室やダム内部、発電所などで担当職員の説明があり、児童たちは一生懸命メモをとっていました。

昼食後は、下流公園の会場で木こり体験、しおり作りなどができる森林（もり）のコーナー、リトマス紙を使って酸性・アルカリ性を調べる実験コーナーで、実際に体験をしながら楽しむ姿も見られ、他校の児童と名刺交換をしながら交流を深めていました。

お別れの会で、生保内小学校の小原遙真さんは「友だちと木のクイズで全問正解できた。玉川ダムの水は農業用水や発電、飲み水に使われているところがすごいと思った」と感想を述べました。

## 卒業30周年で母校に寄贈

角館中学校（田口和典校長）の新制第4期生で作られた卒業30周年記念行事実行委員会（小松誠実行委員長）が、7月30日に角館中学校を訪問し、生徒の様々な作品を掲示するための展示板を寄贈しました。

これは卒業30周年を記念し、同実行委員会が同期生に呼びかけて行われたものです。

小松実行委員長は「母校への感謝の気持ちを込めて展示板を寄贈させていただきます」と話し、田口校長は「これまでは学校祭の時などに展示板を校外から借用していたが、これからは日頃の生徒の作品を掲示する際にも活用できるので大変助かります」とお礼を述べました。



寄贈した展示板の前で握手する小松実行委員長（左）と田口校長（右）。



迫力の双龍の出会い。



辰子姫と八郎太郎に扮した平野さん（右）と藤原さん（左）。

## 第48回たざわ湖・龍神まつり

### 湖の安全と縁結び祈願

7月29日、田沢湖白浜のおまつり会場で「第48回たざわ湖・龍神まつり」が開催されました。今年のはたつこ像建立50年の節目の年にあたることもあり、建立を祝う神事がたつこ像前で行われました。神事には、田沢湖在住の平野つくしさんと藤原大輔さんが扮する辰子姫と八郎太郎のほか、関係者約30人が出席しました。実行委員会の佐藤和

志会長は「たつこ像は、これまで田沢湖の知名度を上げる役割を果たしてきた。今後も輝き続けてもらうために、私たちも努力していきたい」とあいさつしました。田沢湖白浜のおまつり広場では、多くの屋台が立ち並んだほか、特設ステージでは音楽祭も行われ、会場はお祭りムード一色に包まれました。龍みこしを担いで会場や湖畔を練り歩くメインイベントの「双龍の出会い」では、担ぎ手たちが威勢のよいかげ声を響かせながら演舞を披露し、夕日が映える湖に入って2体の龍が出会う場面が再現されると、訪れた観客から歓声が上がりました。



尾崎美由紀（おざき みゆき）  
1984年、北海道生まれ。熊本県の私立高校を卒業後、山梨大学に入学。まちづくりや都市計画を学び、福島県内の企業に就職。結婚や転職を経て、前職である（株）プロジェクト地域活性に入社。「仙北市食から始まる地域づくり推進協議会」（会長 高田肇）の事務局担当者として仙北市に初めて訪れ、仙北市の人、自然、歴史に惚れこみ、2015年9月に仙北市地域おこし協力隊員第1号として移住。



乳頭温泉郷での「ブナ森ヨガ」。森林に囲まれリフレッシュ！



市外の地域おこし協力隊員を招いて、みんなで「ゾンビメイク」。



寒さもなんのその！「雪上尻相撲大会」。

地域おこし協力隊員第1号  
尾崎美由紀さん

## 地域おこし協力隊、卒業。

2018年8月31日をもって、仙北市地域おこし協力隊の隊員第1号である私は、地域おこし協力隊の任期を満了します。楽しさ、喜び、悩み、変化し続けた3年間を終え、仙北市民として、これからの生活をスタートさせます。

仙北市への移住を決めたのは、仙北市への移住と起業を考え始めた約3か月後でした。仙北市に移住して、地域おこし協力隊としての3年の任期を終えたあとで、「休耕農地」の活用で仕事を作れるのではないかと、ぼんやりとしたビジョンだけを持っていました。

実際に地域おこし協力隊として移住をして、初めて取り組んだのは、田沢地域の全戸訪問でした。ご高齢の方が一人で畑ごとと趣味の絵を愉しみながら暮らしていたり、4世代家族のお母さんが介護と孫育てを頑張っていたり、バリバリ働くご家庭で3回訪問しても誰にも会えなかったり、田沢のひとたちの生活の様子を垣間見ました。

それから、田沢地域運営体「荷葉」のお手伝いや、新たな協議会の立ち上げ、NPO法人の立ち上げとステップアップしてきました。

雪を愉しみたくて取り組んだ雪上尻相撲、田沢湖の周りで開催した青空ヨガ、県外に住む友人を招いて仙北市を案内したことも10回では足りません。憧れて住み始めた仙北市ですが、住んでみて気づいた新たな魅力もたくさんありました。都市部に生活しては得られない癒しがたくさんあるのが仙北市です。

現在、私が立ち上げたNPO法人タイニーフィールズで取り組んでいるのは、企業に勤める人たちのための職場のストレスを減らす研修です。都会でも田舎でも、人材不足で悩む企業が増えているので、企業に勤める人たちには、働く環境改善研修をすることで、働き続けられる会社づくりのお手伝いをし、リフレッシュ研修として田沢に来てもらうことで、働く活力を養ってもらうことを目指して活動しています。

この3年間はあっという間でした。仙北市の方々、中でも田沢に住む皆さんには温かく受け入れていただき、心強い思いをすることが多くありました。これからは「地域おこし協力隊の尾崎です！」という挨拶をすることはなくなってしまうので、寂しい思いもありますが、仙北市を愛する市民の一人として、今後も仙北市で暮らしていきますので、これからも末永くよろしく願いいたします。

仙北市堆肥センターは、平成28年度より国の畜産環境総合整備事業により整備を進め、本年3月に完成しました。

4月からは、市内の畜産農家より排出される家畜排せつ物の堆肥化処理を行っています。現在、堆肥の成分分析を行っており、成分の安定した後に特殊肥料として、皆さまに販売させていただきます。計画となっています。

堆肥センターでは、特殊肥料の販売にあたり、肥料（堆肥）の名称を6月18日から7月13日にかけて広報等で募集したところ、市内外から34件の応募がありました。選考委員会による

選考の結果、大仙市在住の松橋友理絵さんの作品『仙北の底力』が、仙北市農業の魅力を表現するに最もふさわしいものとして、採用させていただきました。

『仙北の底力』の「底」は、田沢湖の底が日本一深いことに加え「底力を発揮して日本一おいしい農作物を生産してほしい」という松橋さんの思いが込められているそうです。

松橋さんには、門脇市長から感謝状と記念品として(株)秋田仙北夢牧場で生産された和牛サーロインステーキ肉が贈呈されました。

# 仙北の底力



松橋さん（右）には、感謝状と記念品が贈呈されました。

## ヘルスケアツーリズム

### モニターツアーを行いました

7月23日から26日までの3泊4日で、仙北市の地域資源である温泉と食を組み合わせた健康増進プログラムのモニターツアーを実施しました。

モニターツアーは、台湾の旅行会社から3人の女性を招き、健康・ストレッチエック、ブナ林トレッキング、カヌー体験、アロマ体験等を行ったほか、地元食材を使った健康食を味わい、温泉施設に宿泊するという内容です。参加者からは、「台湾でも知名度の高い温泉に入ることができ、モニターツアーの体験は、とても体によさそうだ」という感想が聞かれました。



台湾旅行会社の皆さんは、市役所田沢湖庁舎を訪問し、倉橋副市長（左）にあいさつ。今後は、このモニターツアーの成果をインパウンドの誘致と観光客、市民の健康増進につなげていきます。

## 大仙市・仙北市・仙北郡 戦没者遺族地方大会

7月25日、美郷町公民館で開催された「第52回一般財団法人秋田県遺族連合会 大仙市・仙北市・仙北郡戦没者遺族地方大会」で、長年の仙北市遺族会活動に大きく貢献された戸澤幹夫さんに秋田県遺族連合会会長より功労者表彰が贈られました。

また、米寿を迎えられた仙北市遺族会会員の皆さんに、感謝状が贈られました。来年度は仙北市が会場となります。

## 新しい民生委員・児童委員を紹介します



吉田・小波内・相内・相内湯地区担当 高橋昇治さん 電話(48)2101

6月28日付けで、厚生労働大臣から委嘱状が交付されました。

吉田・小波内・相内・相内湯を高橋昇治さんが担当します。

地域の皆さんの福祉のため活動されますので、お気軽にご相談ください。

## 第37回秋田県身体障害者福祉大会 団体育成功労者表彰を受賞

7月12日、秋田県立武道館（秋田市）で開かれた「第37回秋田県身体障害者福祉大会」で畠山ミヨさんが秋田県知事から、白川フミ子さん、藤原シゲ子さんが秋田県身体障害者福祉協会長から団体育成功労者表彰を受賞しました。

皆さんは、長年にわたり仙北市身体障害者協会の事業に積極的に参加し、育成と発展に尽力されたとして今回の受賞となりました。



左から藤原シゲ子さん、白川フミ子さん、畠山ミヨさん。

## 秋田県消防協会 大仙仙北美郷支部消防訓練大会

7月14日、大仙市の『大曲の花火公園』で、秋田県消防協会大仙仙北美郷支部消防訓練大会が開催されました。当日は、2市1町の各大会で勝ち上がった上位分団が参加し、小型ポンプ操法と規律訓練で競い合いました。

仙北市からは、小型ポンプ操法の部に第4分団1班・3班、第8分団が、規律訓練の部には第8分団、第9分団、第10分団が出場しました。



小型ポンプ操法の部で3位に入賞した第4分団3班。



規律訓練の部で優勝した第8分団。

- 仙北市の結果は次のとおり。（）は地区名。
- ▼小型ポンプ操法の部
  - 第3位 第4分団3班(神代)
  - 第5位 第8分団(白岩)
  - 第6位 第4分団1班(神代)
  - ▼規律訓練の部
  - 優勝 第8分団(白岩)
  - 第5位 第9分団(雲沢)
  - 第14位 第10分団(中川)

## 第38回全日本バレーボール小学生大会秋田県大会 角館小学校の児童が全県優勝に貢献

6月23日・24日、CNAアリーナ★あきた（秋田市）を主会場に開催された「第38回全日本バレーボール小学生大会秋田県大会」で角館小学校の小松美咲さん（6年）、高橋陽菜さん（同）、根布谷優花さん（同）、高橋来唯さん（5年）が所属する中仙バレーボールスポーツ少年団が初優勝を飾りました。

今大会には全県から32チームが参加、1回戦から順当に勝ち進み、角館小学校のメンバーの活躍もあり見事全国大会への切符をつかみました。

ほか、大仙市中仙地域や秋田地域の小学校など、合わせて5校の児童からなるスポーツ少年団。メンバーを束ねるキャプテンの高橋美陽さん（中仙小6年）は「みんなで声を出して心を一つにプレーしたい。そして予選リーグを突破して決勝トーナメントにいきたい」と、力強く全国大会での目標を語ってくれました。

4人が所属する中仙バレーボールスポーツ少年団は、秋田県代表として8月7日から神奈川県川崎市のとどろきアリーナを主会場に開催された「第38回全日本バレーボール小学生大会」に出場しています。

左から、高橋陽菜さん（6年）、高橋来唯さん（5年）、根布谷優花さん（6年）、小松美咲さん（同）。



講演後に行われた肌チェック（左）やハンドトリートメント体験（右）。



### 美肌県秋田仙北市 温泉郷美肌講座

今年5月に仙北市と株式会社ポララとの間で締結した「健康・美のためのヘルスケア連携協定」の事業の1つとして、7月19日に「美肌県秋田仙北市 温泉郷美肌講座」が開催されました。

はじめに株式会社ポララより、昨年の美肌県グランプリで秋田県が3位であったという結果を踏まえて、今年度1位を取るために、生活習慣の改善やうるおい対策の必要性のお話がありました。

また、島根県にある玉造温泉の温泉ソムリエの藤田智加さんをお迎えし、玉造温泉での取り組みと美肌への温泉効果の講演がありました。入口などに書かれてある温泉分析表の見方や泉質によって異なる特徴の説明に、参加者はより身近に温泉や美肌への効果を感じていました。

藤田さんは「この温泉は皆さんがよく知っている。魅力をアピールできるのは皆さんです」とお話しされました。

講演後には、肌チェックやハンドトリートメント体験が行われ美肌への意識を高めた時間になりました。



### 温泉浴マイスター人材育成講座

7月12日に温泉浴マイスター人材育成講座（主催／仙北市温泉療養研究会 会長 西明寺診療所所長 市川晋一）が、西木温泉ふれあいプラザクリオンを会場に開催され、ケアセンター南昌センター長の吉岡尚文先生、西木調剤薬局の畠玲子先生を講師としてお招きし、温泉の泉質や効用、安全な入浴方法などについてわかりやすく講演いただきました。

会場には、秋田市・大仙市からの受講者を含め24人が集まり、講師のわかりやすいお話にメモを取りながら最後まで真剣に聞き入っていました。



最後には認定試験が行われ、受講者全員に温泉浴マイスター認定証が交付されました。

### 田代平避難小屋 防腐塗装作業を行いました！



参加した高校生の皆さん。

7月21日に秋田県生活環境部自然保護課主催で田代平避難小屋の防腐塗装作業を行いました。

当日の作業には、角館高校山岳部、大曲高校登山部、大曲工業高校ワンダーフォーゲル部、ホシガラスの会、環境省、秋田県自然保護課、仙北市観光課など総勢46人が参加しました。

作業中は和気あいあいと外壁のペンキ塗りが行われ、参加者の頑張りのおかげで、予定より1時間ほど早く作業を終えることができました。今後も自然公園施設の整備により一層尽力して参ります。



### 50m 背泳ぎ（9歳以下男子） 木元晴樹くんが優勝

7月8日、秋田県立総合プール（秋田市）で開催された「第41回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会・秋田県予選会」で50m背泳ぎに出場したアクアスポーツ少年団所属の木元晴樹くん（西明寺小3年）が9歳以下男子の部で優勝しました。

木元くんは、1年生の時にアクアスポーツ少年団に入団、西木温泉ふれあいプラザクリオンのプールで同団の渡辺友康さんの指導を受けながら記録を伸ばし、今大会は40秒94で優勝しました。木元くんは「得意な種目は背泳ぎ。水泳は好きだし、泳いでいて楽しい」と話してくれました。

### 西木正明さん故郷への思い語る



左から、秋田魁新報社の伊藤毅論説委員長、西木正明さん、門脇市長。

西木町出身の作家・西木正明さんを囲む集いが、7月21日に仙北市総合情報センターで開催され、市民など約70人が参加しました。

この集いは、秋田さきがけ新報に平成7年から連載中の時評集『複眼流』の出版を記念し、秋田魁新報社と学習資料館の共催により行われました。

西木さんと門脇市長との対談で、西木さんは「取材で世界各地をまわったが、仙北市ほどすばらしく、落ち着く場所はない」と故郷への思いを語りました。門脇市長は『複眼流』の中で気に入った文章を紹介し「西木さんの徹底的に取材をしてから本にまとめるスタイルの根拠が垣間見えた」と話しました。

対談後には、サイン会も行われ、参加者は西木さんとの会話も楽しんでいました。